令和8年度　前期授業評価の結果について

令和8年10月19日
宮城県南三陸高等学校　教務部

本校では、前期と後期の年2回、授業をよりよく改善していくために、教員の授業について、下記の①～⑭項目に関し生徒による授業評価を行っております。
今年度の前期授業評価について、結果・分析がまとまりましたので報告いたします。

1　アンケートの実施結果（教科別）

実施期間：令和8年9月1日～9月30日まで

＊ 各項目について
【そう思う=4　ややそう思う=3　あまりそう思わない=2　そう思わない=1】と点数化し、それを平均したものが以下に示される数値です。その際、平均値は2.5になります。

『あなた自身に関する質問事項』	国語	社会	数学	理科	英語	保体	家庭	芸術	情報	商業	教科平均	昨年度（前期）の数値
①先生の話を理解しようと努めている。	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.8	3.8	3.8	3.5	3.6	3.7	3.7
②分からないことは、誰か（先生や友達）に質問するようにしている。	3.3	3.2	3.3	3.3	3.2	3.6	3.2	3.6	3.5	3.4	3.3	3.5
③予習をして授業に臨んでいる。＊体育、音楽、美術については回答せず、保体は保健のみの数値。	2.3	2.3	2.2	2.3	2.2	2.3	2.2	-	2.7	2.3	2.3	2.2
④復習をして授業に臨んでいる。＊体育、音楽、美術については回答せず、保体は保健のみの数値。	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	-	2.7	2.4	2.5	2.5
⑤提出物の提出期限を守っている。	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.7	3.8	3.7	3.2	3.6	3.6	3.7

『先生や授業に関する質問事項』	国語	社会	数学	理科	英語	保体	家庭	芸術	情報	商業	教科平均	昨年度（前期）の数値
⑥先生は十分な準備をしている。	3.7	3.8	3.8	3.8	3.6	3.8	3.8	3.8	3.6	3.8	3.8	3.8
⑦授業では大切なポイントが示されている。＊例えば、授業の始めに、その授業での到達目標が示されている。	3.6	3.8	3.7	3.8	3.5	3.8	3.8	3.8	3.5	3.7	3.7	3.7
⑧授業の進む速さは適切である。	3.5	3.7	3.6	3.8	3.4	3.8	3.8	3.8	3.2	3.6	3.6	3.7
⑨先生の指示がよくわかる。	3.5	3.7	3.6	3.8	3.4	3.8	3.9	3.7	3.4	3.6	3.6	3.7
⑩板書が見やすい。＊体育については回答せず、保体は保健のみの数値。	3.6	3.6	3.7	3.7	3.4	3.7	3.8	3.7	3.3	3.6	3.6	3.7
⑪先生は生徒の反応を大事にしている。	3.5	3.7	3.7	3.8	3.5	3.8	3.9	3.8	3.5	3.7	3.7	3.7
⑫使用している教科書や副教材は学習に役立っている。	3.6	3.7	3.7	3.7	3.5	3.7	3.7	3.8	3.4	3.5	3.6	3.7
⑬定期考査（または実技試験）の内容は、授業に沿ったものである。	3.6	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.8	3.8	3.4	3.7	3.7	3.8
⑭授業を通して得たものは多い。	3.4	3.6	3.6	3.7	3.4	3.7	3.8	3.7	3.4	3.6	3.6	3.7

⑮授業をよりよくするためにどうしたらよいか、意見や要望があったら書きなさい。

・時間通りに終わらせてほしい
・プリントの文字の量を減らして欲しい
・スライドのスピードをもう少しゆっくり開いて欲しい
・穴埋めの語句を入れる時、①とかを書いてほしい
・プリントの誤字を減らして欲しい

2　アンケートの結果分析

【全体分析】

授業評価では、教科平均で「先生は十分な準備をしている」が3.8、目標提示と生徒の反応を大切にする姿勢が3.7と、昨年度と同水準の評価を得ている。一方、授業速度、指示の分かりやすさ、板書、教材の有用性、授業を通じて得られるものは3.6で、昨年度を0.1下回った。生徒自身の評価では、授業理解は3.7を維持したが、質問する姿勢は3.5から3.3、提出期限の遵守は3.7から3.6に低下した。予習は2.2から2.3に上昇し、復習は2.5で変わらないものの、他項目と比べて低く、家庭学習の定着が共通課題と考えられる。自由記述では、授業時間の確認や、プリントの工夫、使用スライド提示に際して速度の調整を希望する意見が出た。

【教科ごと】(項目1.データの分析、項目2.後期の授業に向けての対策)

国語	1	予習・復習の数値が低くなっているが、昨年度よりは上がっている。授業時間内での予習や復習のためのノート整理等が功を奏していると思われる。また、「授業を通して得たものは多い」の項目が低くなっている。
	2	予習・復習に関しては、今後も上記内容を継続させたい。また、「授業を通して得たものは多い」の項目に関しては、進路や日常生活に関する内容を盛り込み、将来生きていくために必要なことを考えさせたい。
社会	1	予習・復習の取り組みは昨年度に比べて若干上がったが、他の評価項目に比べて低い数値が続いている。また、授業の速度や内容についての評価がやや低くなった。
	2	予習・復習に関して、特に復習についてはワークの取り組みなどをテスト前に限らず行わせるようにしたい。授業の内容については、教える内容を精査しながら、生徒の習熟度に応じて個別のフォローを行うなどして改善したい。
数学	1	予習・復習をして授業に臨んでいる生徒の割合が低いことから、家庭学習の習慣が身についていない可能性がある。特に復習をして授業に臨んでいるの項目が昨年度より低くなっている。
	2	提出物の期限を守っている生徒が多いことから、家庭学習において、予習・復習が定着するような課題となるように工夫していきたい。また、習熟度別指導を生かし、生徒の反応を大切にしながら、発問しやすい雰囲気作りを展開をしていきたい。
理科	1	全体的に高い評価を得ているが、予習・復習の取組が昨年同様、低い。また、わからないことを質問するという項目も僅かに低くなった。提出物の期限を守っているという項目も若干低くなった。
	2	授業への取り組みは良好である。予習、復習については、適宜生徒に声がけをしていきたい。授業については、生徒が質問しやすいような説明や発問を工夫していきたい。具体的には、ICTを活用した質問システムを構築する等が考えられる。
英語	1	③についての値が低いが、英語科では予習を課しておらず、授業の中で教科書の英文を初見として読むようにしているため妥当な数値である。②の数値が低いので、生徒が質問をする時間を授業内に意図的に設ける等、何らかの工夫を行っていきたい。
	2	⑨については、指示はできるだけ英語で行うようにしている。指示内容を簡単な英語で言い換えたり、話すスピードを変えたり、声量を変えることで生徒に伝わるようにしたい。また、指示後の生徒の理解も確認した上で授業を進めていきたい。
保体	1	①、⑤～⑭の項目は高い数字を残しているため、引き続き生徒の意欲を引き出すように授業構成をしていきたい。一方で分からないことを誰かに聞こうとしているの項目が低くなっているため、授業を改善していけるようにしたい。
	2	話し合い活動を増やしたり、スキルアップのための時間設けたりする中で、一人ひとりの達成感を充実させる取り組みを増やしたい。また、誰もが、発言しやすい雰囲気作りも行っていきたい。
家庭	1	生徒の授業に取り組む姿勢は良好である。予習・復習を行っている生徒の割合が低く、家庭学習の習慣が身についていない可能性がある。②の結果から、分からないことをそのままにしている可能性もある。⑥～⑭においては良好である。
	2	学習内容を実生活と結びつけるような課題を提示し、予習・復習の改善を図っていきたい。質問する場面をつくる、プリントに質問を書くように声がけを行うなど分からないことを質問しやすい雰囲気づくりを行っていきたい。
芸術	1	昨年度と比べて、全体として大きな変化は見られなかった。「分からないことを質問する」は3.3から3.6に上昇した一方、「先生の指示がよくわかる」は3.8から3.7に低下しており、指示の伝え方について検討する必要がある。
	2	活動内容や手順について、口頭での説明だけでなく、板書や資料等を活用して具体的に示す。また、生徒の理解度を適宜確認しながら授業を進めるとともに、質問しやすい環境を継続し、生徒が見通しをもって活動できるようにする。
情報	1	今年度より完全オンラインでの授業に移行したが、全体的に一定の評価を得ている。一方、授業の進度や説明の分かりやすさ、教材の活用については、さらなる改善の余地が見られる。
	2	オンライン授業の特性を生かし、教材の工夫や個々の理解度に応じた指導の充実を図る。また、生徒との双方向のやり取りを増やし、主体的に学習できる授業づくりを進める。
商業	1	前年度と比較して概ね高い評価を維持しており、生徒との良好な関係性がうかがえる。一方、授業の進度や説明方法など、一部の項目については継続的な改善が求められる。
	2	生徒一人ひとりの理解度や学習状況を把握し、授業の進度や説明方法を工夫する。また、実践的・体験的な学習活動を充実させ、生徒の主体的な学びと学習意欲の向上を図る。